## 東北みずの会が「東北水道フォーラム」開く

# 地域の水道を一枚の絵に

## 人口減少社会の水道事業は

東北みずの会（会長＝石橋良信・東北学院大学教授）は11月13日、第1回東北水道フォーラム「人口減少社会における水道システムの構築　東北からの挑戦」を仙台市の東北学院大学で開催した。元厚生労働省水道課水道計画指導室長の熊谷和哉・富山県生活環境文化部次長を講師に迎えた基調講演やパネルディスカッションを通じ、参加した水道関係者ら約180人とともに、人口減少社会における水道事業のあり方などについて考えた。今回のフォーラムは、同会が昨年10月に設立されてから初めて開催する記念すべき第1回目。東北からこれからの水道を考える、第一歩が動き始めた。

フォーラムの冒頭、石橋会長は、「当会設立から1年が経過し、人口減少が進む東北の水道をどのように進めていけば良いか少しずつ分かってきた。本日のフォーラムを、今後の方向性を考える糧にしたい」とあいさつした。

基調講演では、「日本の人口構成と人口減少、その水道事業への影響」をテーマに、熊谷和哉・富山県生活環境文化部次長が講演。

熊谷次長は、人口減少が始まった日本について、世界の先進国と同レベルの人口密度になるだけで、決して悲観することはないとしつつ、現状の料金体系では、仮に人口が減少しなくても単身世帯の増加により料金収入が減ってしまうことや、水道料金が真のコストを表していないことを指摘。携帯電話料金や医療費を例に挙げ、「制度の見直しや内訳を示すなど、水道事業も住民に理解してもらうための努力がもっと必要」と訴えた。

そして、人口減少社会の中で、施設更新計画を立てる上でのポイントを説明。「浄水場や管路の更新が、隣町と管を繋ぐことや新たな井戸を見つけることになるかもしれない。改めて、水源から末端まで自分達が何を持っているかを頭に入れ、全体で更新計画を立てるべき。そのためには、地域の末端供給と用水供給を一枚にまとめた絵を描いてほしい」とし、周辺の事業体にも関心を持つよう呼びかけた。

また、平成28年度末までに統合を求められている簡易水道問題にも触れ、「一つの事業体の中での事業格差は、本来はその中で解決すべき。もう一度、行政サービスの平等性を構築すれば、おのずと簡易水道問題はなくなるはず」と述べた。

講演の最後には、私的水道ビジョンを紹介し「自分を知り、将来を知り、〝できること〟からこつこつと、まずは行動することが重要」と訴えた。

「人口減少社会における水道システムの構築」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、岡崎弘・東北みずの会事務局長（宮城県村田町役場総務課危機管理監）がコーディネーターを務め、パネリストには熊谷次長に加え、菊池明敏・岩手中部水道企業団局長、杉山達範・横手市上下水道部水道課主査、岡地雄一・第一環境㈱代表取締役社長、石橋会長が登壇。

菊池局長は、同企業団において用水供給と末端供給で垂直統合したことにより、安定かつ豊富な水源を取捨選択できるようになり、全員がプロパー職員になったことを説明し、「職員が覚悟を決めている。これまで先延ばしにしていたことから、率先して行うようになった」と述べた。杉山主査は、将来の水道のあり方の共有や人との交流のため、秋田県南地区で水道事業研究集会を行っていることを紹介。「事業である以上、継続した赤字ではいけない。課題を解決しながらそれなりの収益を上げる水道システムの構築には、よく考え、話し合うことが必要」とし、近隣事業体との連携・助け合いの重要性を訴えた。

岡地社長は、「水道は地域住民のものであり、これからは、住民を加えた〝官民民〟連携が必要」としたほか、民間委託の受け皿として、水道の専門企業と地元企業の合同会社を設立し、利益を還元していく新しい仕組みづくりを提案した。石橋会長は、東北地方の人口減少率が、全国平均に比べ大きい状況を説明し、「東北は、国や他の地方に対し、率先して指針等を提案する立場にきている」と述べた。熊谷次長は、自覚的であることが大切とした上で、「昔からやってきたことでも、状況変化に伴い、違和感を覚えるのは当然。過去のものをもう一度考え直していくというのが〝水道事業の現在位置〟」と述べた。

最後に、副会長を務める橋本潔・宮城県環境事業公社理事長があいさつし、「人口減少が水道事業に大きな影響を及ぼすのは間違いない。東北地方はいち早くその対応に取り組んでいる。こうした取り組みが東北全体に広がり、全国のモデルとなるような水道システムの実現に向け、これからも挑戦していきたい。本日のフォーラムが東北地方から日本の水道事業の未来を考える一つの機会となれば」と締めくくった。なお、東北水道フォーラムは毎年開催していく予定。

石橋会長

橋本副会長

岡崎事務局長

熊谷次長

菊池局長

杉山主査

岡地社長

東北から日本の水道を考える

**東北みずの会**＝水環境の保全や水道の分野で活躍する東北地方の水道事業者及び関係者に意見交換の場を提供し、志を持つ方々がそれぞれの地域、分野で行っている先進的な活動のネットワーク化、情報の共有化を図ることで、水道事業の発展、特に急激に進む人口減少社会のなかでの水道事業の健全な運営を支援することを目的として、平成26年10月25日に設立された。